

RETAILER ACADEMY NEWS

Nov 2019 | Bentley Motors Japan



スペインで フライングスパー研修を実施 参加者は新モデルをどう見たか？

Q1

新型フライングスパーの
良い点（アピールポイント）



“ パワーラインを2本に分けたことにより、フロントからリアまで立体的に見え、メリハリがあり一層ダイナミックな印象になった。 ”

ベントレー東京・柳澤拓海 様

ベントレー東京
土田裕之 様

全体のシルエットは圧倒的に良い。車格が上がったことがわかりやすく表現されていると感じた。

ベントレー大阪
服部寛 様

走行モードの切り替えによるサルーンとしての上質さ。ベントレーならではのスポーティな走りとの両立。

ベントレー横浜
山本大 様

あらゆる走行シチュエーションにも最適なドライビングができる走行アシスト装備が豊富。

ベントレー名古屋
井上幹基 様

何と言っても圧倒的なラグジュアリー感。先代と比較すると細かな違いがより際立っている。



Q2

新型フライングスパーの
試乗の感想



“ つづら折りが続くワインディングを駆け抜ける走りは、不慣れながらも恐怖感はなく、とてもしなやかな走行を味わえた。 ”

ベントレー名古屋・宮田英伸 様

ベントレー横浜
菊池雄也 様

DCTが装備されたことで、前モデルより走りがスポーティに感じた。変速のショックは感じられず、非常にめめらか。

ベントレー東京
鈴木智博 様

前モデルと比較し、エンジンとトランスミッションの改良により非常にスムーズで、この大きな車両が軽く感じられる。

ベントレー東京
齋藤啓太郎 様

22インチの扁平率の薄いタイヤでの走行でも、ノイズがまったく気にならない静粛性は、コンチネンタルGTとの大きな違いを感じた。

ベントレー大阪
山本羊司 様

オーバースピード気味にタイトコーナーに突っ込んでも、何事もないかのようにスムーズにトレースを描いていくコーナリング性能が良い。



Q3

研修全体の感想



“ 研修を通じて、非常に商品力のあるクルマだと納得。参加前のEラーニングからとてもわかりやすく、競合車種との比較検討もできて充実した研修だった。 ”

ベントレー広島・檜山将彦 様

ベントレー東京
岡野仁志 様

施設や研修内容はとてもレベルが高く、相応に準備がなされていると感じたし、ストレスや違和感も感じなかった。

ベントレー福岡
徳永誠一 様

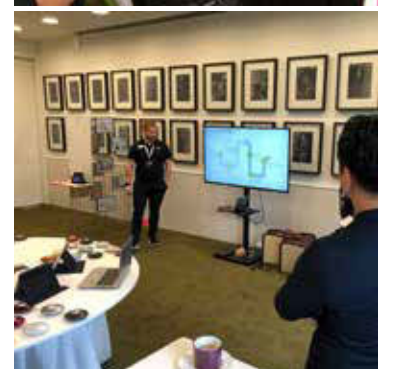
実際にハンドルを握って体験することで、販売時の説明に非常に役立つと思う。いろいろなカラーの車両を揃えていただき、有意義な研修だった。

ベントレー札幌
佐野哲也 様

国外で初めて受けた研修だったが、環境が違う場所で学ぶことも良い経験になった。今後、提案や得た情報を有効活用し、ユーザーへの対応にも自信を持って取り組みたい。

ベントレー福岡
清原敦史 様

メーカー直々のトレーニングはわかりやすく、疑問点もメーカーと他リテラーの皆さんの声をすぐに聞けて解消できた。試乗によって説得力を増した商談が可能になると思う。



ついにプラグインハイブリッドがトップエンドモデルに Porsche Cayenne Turbo S E-Hybrid Porsche Cayenne Turbo S E-Hybrid Coupé

2019年9月13日に、ポルシェジャパンは同社のSUVモデル「カイエン」および「カイエン クーペ」の新たなトップエンドモデルとなる、「カイエンターボSEハイブリッド」と「カイエンターボSEハイブリッドクーペ」の予約受注を開始しました。カイエン史上最強のハイパフォーマンスモデルでありながら、ゼロエミッション走行を可能にした二面性が注目されます。



最強モデルのターボSを電動化

ポルシェにおける「ターボS」の名称は、特別なトップエンドモデルや限定モデル、あるいはハイパフォーマンスモデルであることを示しています。そんな「ターボS」が新たにプラグインハイブリッド搭載のトップエンドモデルとなったのは、4ドアサルーンの「パナメーラ ターボS E-ハイブリッド」から。従来のようにターボエンジンを高出力化するのではなく、ハイブリッドシステムを組み合わせることで高出力化を実現する方向にシフトしています。ポルシェはSUVの次期「マカン」を完全なEVにすることを発表しており、同社の電動化は急速に加速していくものと思われます。



ハイパフォーマンス+E-パフォーマンス

カイエンターボSEハイブリッドのパワーユニットは、カイエンターボと同じ最高出力550ps、最大トルク770Nmを発揮する4.0L V8ツインターボエンジンにプラグインハイブリッドシステムを組み合わせたもの。136 ps、400 Nmを発揮する電気モーターはV8エンジンと8速ティプトロニックSトランスミッションの間に配置され、容量14.1 kWhのリチウムイオンバッテリーはラゲッジスペースの下に搭載され

ます。

これにより、システム最大出力は680 psとなり、最大トルクは900 Nmを発揮します。特にトルクにおいては、起動時から最大トルクを発揮する電気モーターの特性を活かし、アイドル回転数を少し超えた回転域から900 Nmの最大トルクを発生できる利点があります。



また、電気モーターのみで走行することも可能です。電気モーターでの走行時は最高速度が135 km/hとなり、最大40 kmまでゼロエミッション走行が可能です。ちなみに平均燃費は3.9-3.7 L/100 km (25.6-27.0 km/l)、平均電費は19.6-18.7 kWh/100 km (5.1-5.3 km/kWh) です。

充実した標準装備

このモデルには、さまざまなオプション装備が標準で備わります。走行関連では、ポルシェダイナミックシャシーコントロールシステム (PDCC) 電気機械式ロール抑制システム、ポルシェトルクベクトリングプラス (PTV Plus) リアディファレンシャルロック、ポルシェセラミックコンポジットブレーキ (PCCB) 高性能ブレーキシステムなどで、ホイールはエアロデザインの21インチが標準となります。

ベンティガとの比較では

	エンジン形式	最高出力	最大トルク	車重	0-100km/h 加速	最高速度	価格
カイエンターボSE ハイブリッド カイエンターボSE ハイブリッドクーペ	4.0L V8 ツインターボ +電気モーター	680 ps (500 kW)	900 Nm	2,490 kg (DIN)	3.9 秒	295 km/h	23,700,926円 24,200,000円 (クーペ)
カイエンターボ	4.0L V8 ツインターボ	550 ps (404 kW)	770 Nm	2,230 kg (DIN)	4.1 秒	286 km/h	19,372,222 円
ベンティガ V8	4.0L V8 ツインターボ	550 ps (404 kW)	770 Nm	2,480kg (5席)	4.5 秒	290 km/h	20,817,000 円
ベンティガ	6.0L W12 ツインターボ	608 ps (447 kW)	900 Nm	2,530kg	4.1 秒	301 km/h	29,075,000 円
ベンティガ スピード	6.0L W12 ツインターボ	635 ps (467 kW)	900 Nm	2,414kg	3.9 秒	306 km/h	30,000,000 円

カイエンターボSEハイブリッドのスペックと価格は、ベンティガの各モデルにそれぞれ重なります。

V8エンジンにハイブリッドシステムを加えたカイエンターボSEハイブリッドは、現時点ではSUVでは最強となる680 psの最高出力を誇ります。最大トルクはベンティガのW12気筒モデルと同一で、0-100km/h加速もベンティガ スピードと同一。最高速度ではベンティガのW12気筒モデルが上回ります。価格はベンティガのV8モデルとW12気筒モデルの間にあり、スペックと装備内容的にも極めて妥当なものとなっています。ちなみにベンティガ スピードの最高速度306 km/hは、ランボルギーニ・ウルスを1 km/h上回っており、現時点でSUV世界最速の地位を維持しています。

このように、カイエンターボSEハイブリッドとカイエンターボSEハイブリッドクーペは、ベンティガと直接競合する内容を備えています。特にカイエンターボSEハイブリッドクーペは、クーペスタイリングを備えたSUVとして、ベンティガにはない個性を備えているのが特徴。ランボルギーニ・ウルスに次ぐ新たな競合モデルとして注目すべき存在です。



プラグインハイブリッドの利点を生かした装備も多数含まれます。通信サービスのPorsche Connectにより、リアルタイム交通情報や充電ステーションの検索を含むオンラインナビゲーション、オンラインボイスコントロールなどを可能にしています。また、スマートフォンのアプリを操作して、イグニッションオフの状態でも車外から車両のエアコンを操作することができます。



COMPETITOR INFORMATION



ニューモデル	ポルシェ・マカン ターボ
発表・発売日	2019年10月1日 予約受注開始
概要	<ul style="list-style-type: none">・従来の3.6Lからダウンサイジングした2.9L V6ツインターボエンジンを搭載。最高出力は40 psアップの440 psに・外観はターボ専用のフロントエプロンと固定式リアスポイラーを装備・ポルシェサーフェスコーテッドブレーキ（PSCB）、18wayスポーツシート、サラウンド サウンド システムなどを標準装備
車両価格（税込）	ポルシェ・マカン ターボ：12,191,667円
デリバリー開始時期	—



一部改良	レクサス GS F
発表・発売日	2019年10月1日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none">・ホイールにマットブラックの配色、ドアミラーとBピラーガーニッシュにブラックの配色を施すことで、精悍さを強調・Brembo製ブレーキキャリパーは、オレンジに加えブルーが選択可能・ステアリングプッシュの剛性アップ、リアトランスアクセルアームブラケットのアルミダイキャスト化により、スポーツ性能を強化
車両価格（税込）	GS F：11,440,000円
デリバリー開始時期	—



特別仕様車	ジャガー XJR575 “V8” ファイナルエディション
発表・発売日	2019年10月21日 受注開始
概要	<ul style="list-style-type: none">・現行モデル最後の特別仕様車で限定20台・ベース車両は最強モデルのXJR575。最高出力575 psの5.0L V8スーパーチャージド・エンジンを搭載・充実した標準装備と、5年間の延長メンテナンスプログラム「JAGUAR PREMIUM CARE 5」を付帯
車両価格（税込）	ジャガー XJR575 “V8” ファイナルエディション：19,680,000円
デリバリー開始時期	—



一部改良	レクサス LS
発表・発売日	2019年10月3日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none">・FRモデルのショックアブソーバーにAWDモデルと同じ伸圧独立オリフィスを採用・サスペンションのチューニングの見直し、ランフラットタイヤ構造の最適化などにより、上質な乗り心地を実現・ハイブリッドモデルでは駆動力と静粛性を向上。同“EXECUTIVE”では、上記に加え後席の快適性を向上
車両価格（税込）	LS500：9,996,000円～15,691,000円 LS500h：11,422,000円～17,117,000円
デリバリー開始時期	—



一部改良	メルセデス・ベンツ Eクラス（クーペ/カブリオレ）
発表・発売日	2019年10月7日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none">・BSG（ベルトドリブン・スターター・ジェネレーター）+48V電気システムを採用した新型1.5L 直列4気筒ターボエンジンをE 200とE 200 スポーツに搭載・E 300 スポーツをカブリオレに新規設定。2.0L 直列4気筒エンジンは従来より13 psアップした258 psを発揮
車両価格（税込）	主なグレード E 200 クーペ：7,330,000円 E 300 クーペ スポーツ：8,880,000円 メルセデスAMG E 53 4MATIC+ クーペ：12,630,000円 E 200 カブリオレ：7,700,000円 E 300 カブリオレ スポーツ：9,250,000円 メルセデスAMG E 53 4MATIC+ カブリオレ：13,200,000円
デリバリー開始時期	—



特別仕様車	レクサス LC “PATINA Elegance”
発表・発売日	2019年10月1日 発売
概要	<ul style="list-style-type: none">・ベース車両はLC500/LC500h。新色のボディカラーに特別仕様車専用内装色を組み合わせた、国内100台限定の特別仕様車・柔らかさと耐久性を両立させた、独自開発の最高級本革をフロントシートに使用・プレミアムレザーを使用した本革ステアリング、専用スカッフプレートなどを装備
車両価格（税込）	LC500 “PATINA Elegance”：14,000,000円 LC500h “PATINA Elegance”：14,500,000円
デリバリー開始時期	—

COLLABORATION

ベントレーゴルフの日本総代理店にキズナゴルフ



ゴルフ用品の輸入販売などを手掛けるキズナゴルフジャパンはこのほど、ベントレー ゴルフの総販売代理事業を開始しました。ベントレー ゴルフを扱う日本での提携先としては初めてのケースで、今後はベントレー ゴルフのゴルフクラブやバッグ、アクセサリー類が日本でも手に入りやすくなります。

ベントレー ゴルフは、ハンドクラフトで最高品質のオーダーメイドのゴルフ用品のコレクションとして知られています。アイアンは兵庫県市川町で製造される最高品質のもの。市川町はかつて武士の刀剣を作る刀鍛冶で栄えた地域ですが、刀鍛冶で培った鍛造の技術を応用し、今ではアイアンづくりの町として世界中のプロゴルファーやゴルフ愛好家にも知られる

ようになっています。こういったベントレー ゴルフのパフォーマンスとハンドクラフトによる最高品質のもののづくりの理念が、キズナゴルフの掲げる「カスタマーファースト」＆「ゴルフファースト」をモットーに「ゴルフで人と人との信頼を繋ぐ企業」になるという理念と一致したため、今回の提携が実現しました。

ベントレーのオーナー様は、ゴルフ好きな方が多いという傾向もあります。ラウンド中でもベントレーに乗っているようなラグジュアリー感を味わえるように、日本で手に入りやすくなったベントレー ゴルフをぜひお勤めください。



新型フライングスパー向けの ブラックラインスペックが登場

ベントレー モーターズはこのほど、新型フライングスパー向けのブラックラインスペックを発表しました。エクステリアのすべてのクロームパーツがグロスブラックのパーツに置き換えられ、フライングスパーの路上での存在感をさらに際立たせてくれるパッケージオプションです。ブラックラインスペックはすでにコンチネンタルGTに導入済みで、今年初めから全世界で販売されたコンチネンタルGTの約30%がブラックラインスペックを装着しているという非常に人気のパッケージオプションとなっています。日本での導入が間近に迫っている新型フライングスパーでも、ブラックラインスペックは人気が出ることが予想されます。今回は、このパッケージをご紹介します。

new Flying Spur Blackline Specification

■ ブラックラインスペックで変更されるもの

エクステリアのクロームのパーツ全て（前後のウィングドBエンブレムとBENTLEYレタリングを除く）

フライングBマスコット

ラジエーター ベーン&マトリックスグリル

サイドウィンドウ周囲のクロームパーツ

ボディ下部のクロームのライン

リアバンパーのクロームインサート

ヘッドランプ&リアコンビネーションランプのベゼル

ドアハンドル

ウィングベント

テールパイプ



標準仕様（左）のクロームパーツが、ブラックラインスペックを装着すると（右）グロスブラック仕上げのエクステリアになる。



ブラックラインスペックを装着すると、この仕様専用デザインの21インチアロイホイールが装着される。レッドキャリパーとの相性も良い。

CENTENARY

ニューヨークに集結した100台のベントレーが ブランドの100周年を祝福

ベントレー モーターズはこのほど、マンハッタンで行われたブランドの過去・現在・未来を祝福する3つの関連イベントを実施し、100周年を祝いました。

過去100年間に製造されたベントレーのオーナーによるパレードは、マンハッタンの外側に設けられたスタート地点を出発。パレードをリードしたのは、東海岸デビューとなった新型フライングスパーや、ベントレー初のプラグインハイブリッドであるベンティガ ハイブリッドなど、ベントレーの最新モデルでした。パレードはその後、ダウントウンのブルックフィールドプレイスに集結し、ゲストはセンテナリー コンクールを楽しみました。コンクールでは過去のモデルから現行全モデル、ラグジュアリーカーの未来を表現したコンセプトカー EXP 100 GTなど、あらゆるベントレーが展示されました。



夕方になると、センテナリー グランド ボールルームへと場所を移し、350人のゲストを迎え、お食事やお飲み物、音楽などを楽しみました。

ニューヨークでのパレードの様子などは、YouTubeのベントレー公式アカウントでも公開されています。100台もの新旧および未来のベントレーが一堂に会する様子は圧巻です。ぜひご覧ください。

Bentley's centenary celebrations
continue in New York



<https://www.youtube.com/watch?v=QzVFkybc1d4>



COLLECTION

ベントレー コレクションに プレゼントに最適な冬の新品を追加



ベントレーの公式アイテム「ベントレー コレクション」から、プレゼントに最適な冬の新品が登場しました。次世代のベントレーファンであるお子様が喜ぶアイテムをはじめ、家庭で使えるグッズ、男性への贈り物や女性への特別なプレゼントに最適なものなどを取り揃えています。また、ベントレーの創業100周年を祈念して製造されたグラフ・フォン・ファーバーカステルの筆記具なども含まれています。いずれの商品もベントレーのブランドを支えてきたクラフトマンシップと卓越したデザインからインスピレーションを得て作られたものばかり。クリスマスシーズンを控えるいま、多くのお客様にベントレー コレクションの商品をお勧めください。



DIGITAL

ベントレーのARアプリで 新型フライングスパーが見られます



ベントレー モーターズのAR (拡張現実) アプリ「Bentley AR Visualiser」で、新型フライングスパーをショールームで見られるようになっています。

このアプリで見られるフライングスパーは、このモデルの大きな特徴であるラグジュアリーとパフォーマンスを前面に出した仕様となっています。「ラグジュアリー」仕様では、ボディカラーはメテオ、インテリアのレザーカラーは、ブリュネル×リネンのデュオトーンで高級感を存分に感じられるように仕上げられています。これとは対比的に、「パフォーマンス」仕様ではボディカラーがエクストリームシルバーで、インテリアはレザーカラーがベルーガ、ステッチがホットスパーというスポーティな仕上げとなっています。どちらの仕様もマリナードライビングスペック、リアシートエンターテインメント、ローテーションディスプレイ、フライングBマスコットが装着されています。また、パフォーマンス仕様では、このほど発表されたブラックラインスペック (詳細はP4を参照) も含まれています。

デリバリーに先行してフライングスパーを体験できる機会です。iPadまたはiPhoneの場合はApp Storeから、Android端末の場合はGoogle Playからアプリをダウンロードのうえ、ぜひご利用ください。



東京モーターショー 2019 で見た日本のEV 動向

10月24日より11月4日に開催された「第46回東京モーターショー 2019」は、約130万人もの人が訪れる大盛況なものとなりました。そんなショーで目立ったのがEV（電気自動車）の多さです。ベントレー モーターズも近い将来にはEVにシフトしていく方針を明らかにしていますが、今回は東京モーターショーから日本のEV 動向を考えてみました。

トヨタは MaaS 用から新規格EV、FCV（燃料電池車）まで

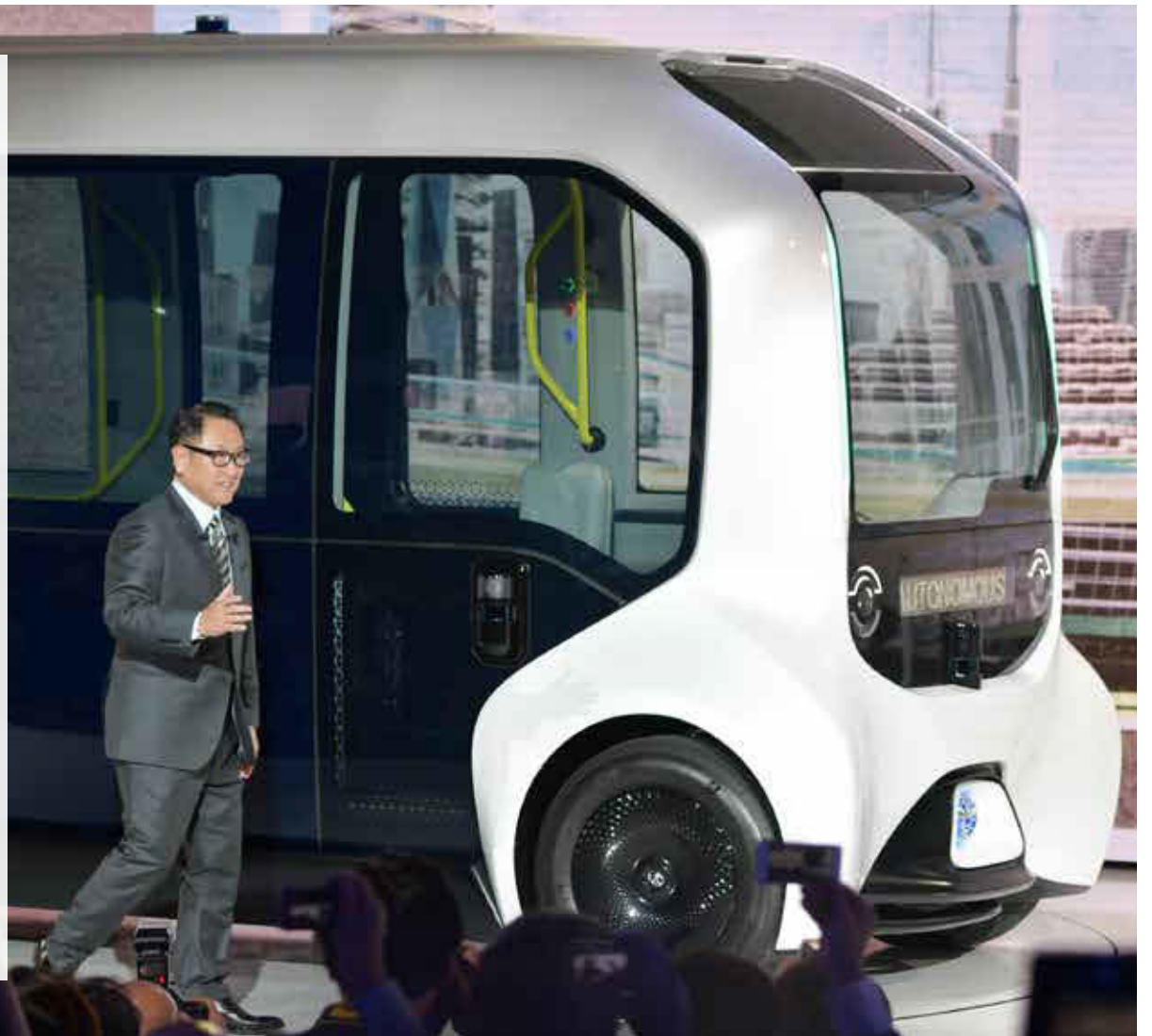
今回のショーの主演と言えるほどの存在感を放ったのがトヨタです。MaaS 用「e-palette」の五輪バージョンを出品。来年の五輪では実際に運用を行うと発表しました。また、軽自動車よりも小さい新規格の超小型EVも出品。こちらも来年には市販を予定した量産直前のモデルでした。また、FCV（燃料電池車）「ミライ」の次世代モデルも発表。ただの電動化ではなく、幅広いモデルを用意したのが特徴でしょう。



箱型の自動運転車である「e-palette（東京2020オリンピック・パラリンピック仕様）」。



FCシステムを一新し、2020年末の発売が予告された次世代の「ミライコンセプト」。



量産EVを持ち込んだホンダとマツダ

ホンダとマツダは欧州で発売する量産型EVを出品しました。ホンダはフランクフルトモーターショーで発表済みの「ホンダe」。価格は約3万ユーロのコンパクトカーで、コネクテッド機能が充実しているのが特徴です。日本での発売も予定されています。一方、マツダが世界初披露した「MX-30」も欧州での販売がスタートしています。「MX-30」は観音開きのドアを備えており、パーソナル向けのカラーが強いモデル。航続距離が200km前後と、あまり長くないのも特徴でしょう。



9月のフランクフルトモーターショーで発表された量産EVである「ホンダe」。



今回のショーで世界初披露されたマツダ「MX-30」。欧州での発売がスタートした。

ほとんどのメーカーがEVを出品

今回のショーで、驚くのは、ほとんどすべての日系メーカーがEV（もしくはPHV）を出品したこと。出さなかったのは新型「レヴォーグ」を発表したスバルだけ。トヨタはMaaS用車両の「e-palette」、レクサスは「LF-30 Electrified」、ホンダは「ホンダe」、日産はSUVの「アリア」と軽自動車サイズの「IM k」、三菱自動車はPHVの「MI-TECHコンセプト」、マツダは「MX-30」、ダイハツがMaaS用コンセプト「イコイコ」、スズキも同じくMaaS用コンセプトの「ハナレ」でした。



SUV「アリア」と軽自動車サイズ「IM k」という2台のコンセプトを発表した日産。



レクサスは、4輪インホイールモーターのコンセプトモデル「LF-30 Electrified」を発表。

公共交通や新規格EVなどを目指す日本

数多くのEVが出品されましたが、冷静に見てみれば、正式に日本での販売がアナウンスされたのは「ホンダe」とトヨタの超小型EVのみ。そのうち「ホンダe」は欧州向けの製品を日本にも販売するというスタンス。実のところ東京モーターショーで登場したEVのほとんどがコンセプトでした。数多くの量産型EVが登場した9月に開催されたフランクフルトのモーターショーと比べると、明らかに異なります。また、日本では「e-palette」をはじめダイハツの「イコイコ」、スズキの「ハナレ」など、MaaS向けが数多く登場しました。新規格EVや公共交通を志向するのが日本のEVの未来の特徴ではないでしょうか。



軽自動車サイズの自動運転コンセプトとなるダイハツの「イコイコ」。



トヨタが2020年より発売を開始する超小型EV。2人乗りで最高速度は60km。